

環境問題に グループで総力を あげて対峙する

日本山村硝子(株)
代表取締役社長執行役員



山村 幸治

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本山村硝子は、1914年の創業以来、“循環型社会の実現に貢献する”精神を大切に、ガラスびん製造を事業の柱として歩みを続け、現在では容器メーカーとして消費者の方々に安心・安全な飲食品を届けるための一翼を担っています。

近年、世界では海洋汚染をはじめとした環境問題が深刻化し、解決に向けた取組みが求められています。容器包装業界においては、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進が改めて重要な課題となっています。当社もグループをあげて環境への取組みを進めていますが、とりわけ主力製品であるガラスびんは、環境問題の解決に大きく貢献すると考えています。ガラスびんは3Rが完全に成り立つ容器です。ガラスは何度溶解しても変化・劣化せずに元の性質に戻る特性があることからリサイクルに適しています。また、洗うと繰り返し使えるためリユースが可能です。さらに、軽量化技術を用いれば、使う資源もごみも減るため、リデュースにも貢献します。

当社は2020年に、長期ビジョンとしての当社グループの“ありたい姿”を「環境に配慮しながら安心・安全を提供し、次世代に誇りをもって引き継ぐために成長し続ける企業グループ」と決めました。長きにわたって社会から必要とされる会社であり続けるため、

刻々と変化する国内外の社会ニーズを捉え、ガラスびんをはじめとして3RやSDGsを考慮した高品質な製品とサービスを開発・提供し、さらに社会に貢献してまいります。本年も、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、日本包装技術協会会員各社様および関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。